

コニカミノルタ株式会社

Konica Minolta Day

主な質問と回答

日 時： 2023年12月12日（火）13:30～17:00

方 式： イイノホール&カンファレンスセンターおよびオンライン／

テレフォンカンファレンス

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

【環境・人財】

Q. 一般的にはコニカミノルタはプリンティングの会社というイメージが強いのですが、紙の使用に関して、森林資源の保全の観点ではどのようにお考えか教えて下さい。

A. プロダクションプリント事業においてアナログ印刷からデジタル印刷へのシフトにより、紙使用量の削減に貢献しています。特にデジタル印刷により大量の在庫保有の必要性がなくなり、廃棄を減らすことができます。当社の技術で貢献が出来ると考えています。オフィスプリントについては、機器の品質向上によって、リサイクルペーパーへの対応力を高めていくことで、紙の原材料の使用量削減に貢献していると考えています。

Q. 人財や環境が直接的に ROE に寄与するとも限らないと考えますが、どのように説明ができるか、お考えを教えてください。

A. 当社の定義するプロフェッショナル人財により、顧客当たりで生み出す価値が上がり、経営効率もそれに伴い上がっていくと考えています。

環境については、環境規制の後押しもありサイクルを進めています。当社の MFP は 5 年間の使用後でも 85%の部品が再利用可能です。15%のみ新しい部材を組み込み、再び製品として提供することが

できます。この観点で、環境対応することが直接的なコストダウンにつながり、利益貢献できると考えています。

Q. 生成 AI を使いこなせる人財や、コンサル・分析ができる人財が多く求められ、これらの人財の賃金も上昇してきていますが、人財確保や教育の面での取り組みを教えてください。

A. 人財については、定量的な目標を定め既存社員の教育のレベルアップをしています。社外人財の獲得では、報酬面がハードルになるのは確かですが、さきほどご説明したエキスパート制度で対応しています。これらの人財は賃金だけでなく、自身の専門で活躍ができるのかも重視していますので、当社でどう活躍ができるのか、どう成長できるのかを説明して確保に努めています。

Q. ある家電量販店は有価証券報告書で、スキル見える化について開示していました。このような取り組みを期待しています。

A. 専門性の高い人財については、ビジネススキルを専門委員会で審査して認定しています。今後、数値化や開示についても検討していきたいと考えています。

【技術・知的財産】

Q. 御社の技術と知財のアドバンテージは理解しました。CO₂ 分離膜の TAM の規模や実現性について、可能性を時間軸と共に教えてください。

A. 環境対応技術は先行的に行っていますが、TAM については各社の調査にばらつきがあります。ある調査では、2030 年で 1,000 億円とされています。現在はある仮説を置いて検証しているので徐々に精度を上げていきます。時間軸については、技術的には本中計で確立し、モジュールにして組み込むのは本中計の後を考えています。

以上